

さつそく復興支援

長野・佐久で31人泥かき

桐生災害支援ボランティアセンター



桐生災害支援ボランティアセンター(宮地由高センター長)のボランティアチームは14日、台風19号の大雨で被災した長野県佐久市を訪れ、住宅の泥かきや片付けなどに取り組んだ。

参加したのは桐生第一高校や太田医療技術専門学校から31人。当初、台風15号で被災した千葉県に向かう予定だったが、12日の台風19号禍で隣県の佐久市にボランティアセンターが立ち上がったため、急ぎよ行き先を変更した。

や手押し車などを使って住宅に入り、家主や地元の消防団と一緒に家財道具を運び出し、畳を上げ、床をはがし、床下の泥をかき出すなど、5時間半にわたって汗を流した。

19日には足利で支援活動に従事

参加者募集

桐生災害支援ボランティアセンターでは19日に台風19号で被害を受けた栃木県足利市で行うボランティア活動への参加者を募集している。

当日朝にバスで桐生を出発し、日帰りで家屋の片づけや清掃など現地での要望のある支援活動に従事する。



センター長の宮地さんは「受け入れ対応が

募集人数は30人程度で対象は18歳以上。学生、社会人、性別など不問で未成年者は親の同意書が必要。往復の交通費は不要で食費は自己負担。長靴やゴム手袋などを持参する。同センターは桐生市ボランティア協議会や災害ボランティアネットワーク桐生、同市社会福祉協議会などの団体で構成。

15日にはボランティア協議会(宮地由高会長)の定例役員会が同日開催で今後の活動など話し合った(総合福祉センターで)

すっかりしており、気持ちよく作業ができた。桐生が被災した際、ボランティア受け入れの手本にもなるので」と話していた。

市総合福祉センターで行われ、台風の被害状況や今後の活動など話し合った。宮地会長は「情報を集め、協力して支援活動にあたらう」と話した。

問い合わせや申し込みは18日午後3時まで同市社会福祉協議会(電話46・4165)へ。

避難勧告、そのときあなたは?

防災カフェで語り合う

防災をテーマに自由に語り合う場「防災カフェ@桐生」が15日、桐生市本町五丁目

のコーキング&コミュニティスペース「ココトモ」で開かれた。12日



動いたの 桐生市本町

となつて始めた防災ミーティングの一環。東日本に甚大な被害をもたらした台風19号だが、桐生市の市街地でも「避難勧告」が発

令され、市民に命を守る行動が求められた。カフェに参加した25人は、「大雨特別警報・避難勧告が発令されたとき、あなたのとった行動」や「その理由」を文字でまとめ、5班に分かれて各自の体験を発表し合った。

「勧告前から指定避難所へ」

ケースもあった」といった情報も報告されなかった。

金井教授は、時間雨量の経過と避難準備・避難勧告のタイミングを示した上で、「行政

からの準備・勧告の発令は適切だった」とし、だからこそ住民の判断と行動が重要になると呼びかけた。

林

東日本各地に記 遭っていたが、これまでの被 録的な大雨をもた 害はなかったと記憶してい 川の水位は確認していたのだ らした台風19号。 サークルで毎年合宿を が、イラストで状況は分かる